



2010年(平成22年)
3月発行
埼玉県立所沢高等学校
同窓会
所沢市久米1234
☎04(2922)2185

＝ 目 次 ＝

(6)	(5)	(1)
理科教育の充実化	今年度の国際交流事業について	みんなで支える所沢高校
	座談会	丸山校長・当麻実 同窓会会長・
	田中後援会会長	眼龍 P T A 会長・
		田中栄治 後援会会長
(12)	(11)	(10)
二〇〇九年度同窓会決算・予算案	二〇〇九年度入試結果	在校生の活動記録
		(9) 卒業します どうぞよろしく
		(8) 所沢高校の今昔
		(7) クラス会を開催しました 等

みんなで支える所沢高校

座談会

丸山 豊美 校長・当麻 実 同窓会会長・
眼龍 祥子 P T A 会長・田中 栄治 後援会会長
司会 桑原 浩・定時制教頭(昭和55年卒) 場所 同窓会館希望の鐘

所高は今

司会 昨年は校長先生と同窓会長(以下同会長)との対談を行いました。今回は新たに P T A 会長(以下 P 会長)と後援会会長(以下後会長)にも加わっていただき、「みんなを支える所沢高校」というテーマで対談を進めたいと思います。まず校長先生に現在の所高の取り組みについて伺います。

校長 昨年の対談の中で、同会長が教育の大切な3本柱「知・徳・体」についてお話しになっていました。現在本校では、「知」については「学力向上プロジェクト」の取り組み、「徳」の部分では「K I Z U N A 活動」、「体」については「体力向上プロジェクト」を推進しています。「K I Z U

N A 活動」とは、例えば部活動等で地域の小中学校や地域の人たちとお互いの絆を深める活動のことです。吹奏楽部とバトン部が所沢特別支援学校に行き演奏・演技をしたり、ダンス部が地域の納涼祭に出演する、また陸上部は小学校で指導をしたり、化学部が小学校で子どもたちに実験を行いました。部活動以外でも本校教員が小・中学校で出前授業も企画しました。

司会 P 会長は現在の所高をどのように感じていますか。

P 会長 現役の生徒の保護者としては後援会や同窓会のご支援は大変ありがたいがたく思っています。我々保護者は家庭で衣食住を提供して学校に送り出す立場にあります。その立場で一番期待することは、子どもたちに

は生き生きと高校生活を送って欲しいということですが、その為には子どもたちには、やりたい事だけやればいいのかではなく、やらねばならない事をきちんと身に付けてもらいたいと考えています。

「所高生は生き生きしているし、や



同窓会館希望の鐘にて

る時はやるね。」という周囲からの評価が得られるようであればいいと考えています。

司会 同会長としては、現在の所高をどのように感じていますか。

同会長 先程校長先生から「K I Z U N A 活動」の紹介がありましたが、地域に所高の生徒や先生が出て行くことは、「開かれた学校」という観点から言って素晴らしいことです。と同時に、マスコミを通じて頻繁に所高に関する記事が出ていますので、同窓会としては我が母校は良くやっているなという印象を持っています。

司会 後会長としては後援会という組織の可能性をどうお考えですか。

後会長 私としては現役生徒の保護者という立場ではないので、現役生が自分の夢・志に向かって、それが実現できるように後援会なりのサポートをしたいと考えています。特に P T A の立場であると学校に対して言いにくい事もあるでしょうから、そのような時に、私たちは現役保護者と学校の間のショック・アブソー

バー(緩衝器)的な役割を果たせれば良いと考えています。

司会 最近、情報を発信し続ける学校として、所高は周囲から評価をいただけていますが、「開かれた学校」を目指して具体的にどのような事を行っているのですか。

校長 まずは所沢市内の人たちに本校の様子を知っていただきたく、主な行事等が行われる毎に市の記者クラブに案内を出して、市内の各種新聞で本校を取り上げていただくようお願いをしています。併せて埼玉新聞や全国紙にも客観的な目で記事にしていたくよう働きかけています。

また積極的に学校から外に出て行かなければならないということで、先程の「KIZUNA活動」の他にも例えば昨年の十一月一日に行われた所沢市の美化活動に、本校もPTAの生徒指導支援委員会が中心になり有志生徒と共に参加しました。

さらに本校はこの地域の中心校でありたいと考えていますので、毎年実施される「西部地区進学フェア」では、三年連続本校が会場となつて、西部地区の多くの高校に集まっていただきま



丸山校長

校風と制服

司会 先程P会長からは、生徒にはやりたい事だけではなく、やらねばならない事もしっかりとやれる事を求めたい、とのお話でしたが、もう少し具体的にお話し下さい。

P会長 我が子が高校受験の時、まず保護者・生徒が抱く所高に関する情報・イメージは、①私服である事、②生徒が比較的自由に過ごせる事、③生徒の自治が確立している事です。このうち私服について言えば、私服であるために所高を志望する生徒も多いようですし、服装に関して親子の軋轢も少なくないという事も耳にします。

しかし入学してみると、やらねばならない事がたくさんあることに生徒の多くが気付きます。各種行事等で生徒自らがやるべきことが多く忙しい学校なんだと。そして今の生徒が自由を享受できるのも、その自由を獲得してきた先輩方の努力のおかげであり、その上にさらに積み上げるには、自分たちもやるべき事がたくさんある、ということになるのです。勉強は勿論ですが(笑)。このことを三年間で学べば社会に出て社会に役立つ人になれるのではないかと思います。

同会長 私が高校生の時は詰め襟の

学生服を着ていました。

今の所校生は服装を見る限り、高校生なのか

大学生なのか見分けがつきませんね。私は私服が駄目とか制服がいいとかといった考えは持っていません。ただ服装にしてもその他の生活全般についても、自由には規律が必要だということだと思います。基本的なルールは大切だと思います。

司会 後会長は昨年までご自身のお子さんが現役生でしたが、制服についてはどうにお考えでしょうか。

後会長 デリケートな問題ですね。自由に服装を選んで着ることは楽しいことですが、高校生としてどうなのかという観点からは、学校という教育の場にふさわしい服装かどうかは自分で判断しなければいけないでしょう。私がPTA活動をしていた頃、何度か「所高は私服ではなくなる。」という声を耳にしました。それだけ所高は私服でなければいけない学校なんだと感じたものです。

また色々な所で所高のOBの方々にお会いする機会がありますが、「所高は昔から自由なんですよ。」とおっしゃっています。恐らくそのような校風の所高を残すことを期待もされ



当麻同窓会会長

ているのでしょうか。

司会 一方で現在の所高生は服装についてどのような考え方をしているのでしょうか。

校長 先日ある生徒から意見をもらいました。それは、「所高をいい学校にするには制服にしないと駄目です。生徒各々が好きな格好をしていては学力は向上しません。」というものでした。また、きちんとブレザーを着こなしている女子生徒に声をかけたところ、その生徒は「実は私は制服のある学校に行きたかったんです。」と言っていました。このような生徒も少なからず存在するという事です。

九月には中国から留学生が来日し、本校にも来校することになっていくことから、東京のホテルで行われる歓迎レセプションにバトン部に演技をして欲しいと依頼され、HR委員会の代表生徒と共に参加をしました。その時生徒たちは、今風の言い方をすれば「なんちゃって制服」を皆着るんですね。そのような改まった所に行く時には、それなりの格好をしないといけないという意識が働くんだなと思いました。

そこでかつての「標準服」のようなものを作ったかどうか、生徒会にも投げかけて様々な所で検討を進めています。これを着ないといけない、

というものではなくて、何かの折にさっと着られる服があるといいのかなという思いがあります。

後会長 部活動の大会など、他の学校の生徒と一緒にいる時に、制服(標準服)の様なものがあるといいなど見ていて感じました。今後保護者もOBの方々も見守っていただきたいと思えます。

同会長 制服についてはこれまでの経緯があることなので、今すぐこれを作るということは難しいと思いますが、今の生徒たちの間で議論が起きてきて、結果的に標準服にしても制服にしても出来るのならいいのですが、上から押しつけるものであったならば、好ましいことではないと思います。確かに、端で見ていて高校生かどうか見分けがつかないという違和感は感じますが。

P会長 最近、家庭の指導力の低下ということがよく言われますが、我が子が家の玄関を出る時に、子どもの服装を見て、「それは学校に着ていく服装ではないでしょう。」とか、女の子で夏場に肌が露出ぎみの服装をしていったら、「危ないでしょう。」といった注

意をしたりすることは



眼龍 PTA 会長

とても大切な事です。子ども自らが、その服装をした自分が街中の人たちの目にどう映るのか、学校の中でその服装が適当なのか、ということを想像する力を身に付けさせないといけないと思えます。

●学力の向上をめざして

司会 所沢高校は百十一年を過ぎて進化・発展の途上にあります。今学校で特に力を入れていることは何ですか。

校長 所高に入学してくる生徒が何を求めて入学してくるのか、或いは何を高校で経験し、獲得し卒業していきたくと考えるのだろうか、そのことを考えるにつけ、ほとんどの生徒が大学進学を希望している訳で、その生徒の希望を実現できるように支援していくことに力を入れています。それは生徒側から言えば生徒の学習力の向上であり、教員側から言えば授業力の向上ということになります。このことについて努めていきたくと考えています。

司会 現在、学力の向上に力を入れているということですが、生徒の学習力の向上については、P会長はどうお考えですか。

P会長 所高の保護者の皆さんは所高が進学校だという認識の下に我が子を入学させていると思えますの

で、学力向上への期待は皆さんお持ちだと思います。先生方には学ぶことの意味とか、本当の知の獲得とは何か、ということが伝わるご指導をさせていただけるとありがたいと思えます。というのも、学習の目的がややもすると大学の合格ということに手取り早く結びついてしまうのですが、その先を見据えた学習の必要性について理解することが大切だと思っております。

同会長 OBが集まった時に、今の所高生の学力ランクはどのくらいなのかという話題は良く出ます。ただ勉強というものは親や先生に尻を叩かれてするものでは本来ない訳で、自分の意志、自立した考えでするものです。高校では多岐にわたって基本的なことをしっかりと学んでおくことが、社会に出てからも大切だということ、子どもたちが実感できること、或いは先生方が生徒に感じさせる指導にかかってくるのかなと思えます。

司会 一方で教員の授業力の向上という点については後会長はどのようなお考えでしょうか。

後会長 授業については量と質の問題があります。

量(時間)については、土曜授業も行っていただいています。この夏休みには三十講座以上の補講も行って

いただきました。時間的には十分やっていたらいいと思えますので、これを活かすのは生徒たち如何という事ではないでしょうか。

質の向上については、実際先生方には努力していただいていますし、そこは教育のプロにお任せしている所です。



田中後援会会長

同会長 所高の卒業生も実に多くの分野で活躍されています。豊富な経験をお持ちの専門職の人から、生徒が話しを聞く機会を設けてもいいのではないのでしょうか。自分の母校の生徒たちに自分の経験を伝えたいという卒業生もいると思えます。

校長 昨年はキャリア・ガイダンスで、本校卒業生に講演をしていただきました。また、理科のサイエンス・アカデミー事業では、本校OBで現在東京大学大学院で准教授をされている先生に講義・実験をしていただいていますし、昨年の事例ですが、これもOBの方で当時千葉地検にいらした検事さんに裁判員制度に関連した授業をしていただきました。

同会長 海外経験の豊富なOBもたくさんいると思いますので、ネットワークを拡げてお願いしてみるのも

良いかも知れません。

校長 実は学校でOBの方を探すのは大変難しく困っています。会長さんを始め、同窓会の役員の方々等の人脈からお探しいただけると助かります。

五月には「EUが学校にやってくる」という催しで、英国駐日大使が本校にいらっしやいました。(NHK首都圏ニュースで放映)さすが所高生だなど感心したのは、大使に対する生徒の質問が後を絶たなかったことです。質問の中には「外交官になるにはどうすればいいですか。」というものもありました。このような機会を捉えて、本校の建学の精神である「世界で活躍する人材の育成」という点からも、生徒たちが今後もっと世界に関心をもってくれば良いなと思います。

司会 本校のさらなる発展のために、今後重点を置いて取り組みたいテーマはありますか。

校長 やはり「学力の向上」ということがメインのテーマになると思います。そしてもう一つ、引き続き「学校情報の発信」をしていかねばならないということです。地域の人たち、中学生やその保護者そして先生方、更には塾の関係者の方々を対象に、既に土曜公開授業等も行っていきますが、さらに外に対して発信し続

けたいと考えています。

同会長 それは大事なことです。ね。加えて、卒業生の方々には多くの寄付をいただき、このような立派な同窓会館が出来たのですから、卒業生の方々には母校を訪ねて、是非この同窓会館を見ていただきたいと思えます。この建物は合宿所としても現役生に利用してもらっているようですが、利用状況はいかがですか。

校長 他にも補講の教室や講演会、各種ガイダンスの会場として、更には担任による生徒面談の場としても利用させていただいています。自習室としては従来の三年生だけでなく、今年度からは一・二年生にも、朝は七時半から、夜は七時まで部屋を開放しています。本日に助かっています。

● **四者の連携を深める**

司会 では各会長さんに今後それぞれの組織でどう所高を支えていたいただけるのか、抱負をお聞かせ下さい。

P会長 昨年PTAの進路指導支援委員会の企画で、早大のキャリアセンター長の方からお話を伺う機会に恵まれました。お話の中で、子どもの成長に伴って「指導」から「支え」にシフトすべきだとのアドバイスがありました。これからは保護者として子どもたちに寄り添いつつ支えていきたいと思っています。

高校生ともなると学校で過ごす時間が増えて、家庭の中で会話ができる時間は限られます。学校を含めた四者が子どもを中心に、温かく寄り添えるように、お互いの連携が深まると保護者としてありがたく思えます。

同会長 同窓会という組織は緩やかな組織体ではあるのですが、お互いの母校に対する絆は大変強いという印象です。同窓会HPを見ていますと、色々な場で個別の同窓会が開かれていくことが分かります。先日もHPを見ていますと昭和二十七年卒業の同窓会が行われたとのこと。今から五十七年前の卒業生です。それだけ母校に対する愛着が年齢を重ねる毎に強くなっていくのではないのでしょうか。しかし、各組織が縦割りのままでは母校を支えていけませんので、横の連携をとる機会をこれから意識的につくるべきですね。

後会長 私も横の繋がりを深めお互いに話しをすることが大切だと思いますし、将来に対するビジョンを持った活動をしていくことがとりわけ重要だと考えます。

子どもたちが五年先、十年先、いやもっと先、所高を卒業したと言われた時、彼らが何を背負っていかなければならぬかということ、現役とは違った目で発言をしてくれる

場をつくっておくことが必要なのではないかと思えます。

司会 では最後に校長先生からコメントをいただきたいと思えます。

校長 それぞれの組織の活動目的は、「学校の充実」、「母校の発展」という言葉で結ばれているのではないかと思います。「連携」「絆」をキーワードにこれからも一層本校を様々な面からお支えいただければ幸いです、そのお支えに応えていけるよう頑張りたいと思います。

司会 残念ながら、これまで三組織の会長さんが膝を交えて所高について話し合うということはありませんでした。本日は皆様方とともに貴重な時間を過ごすことができました。その意味でも所沢高校は進化しつつあるのではないかと感じました。これからも皆さん、宜しくお願い致します。本日はありがとうございました。



※後援会賛助会員を募集
しています。詳しくは最
終頁をご覧ください。



ニュージーランドノースカレッジ (終了証書授与式)

本校では、建学の精神である「世界に通用する人材を育成する」ために積極的に交流活動を行っています。今年度も様々な国際交流を行いました。

四月十四日(火)から十八日(土)までは、ニュージーランド・オークランド市のノースコート・カレッジから生徒8名、教員3名が来校し本校生徒・教員の家庭にホームステイして授業体験・所沢市内見学などを行いました。各教室で両校の生徒は

**今年度の
国際交流事業について**
国際交流委員会委員長
田中芳裕



駐日英国大使 D. ウォッレン氏

仲良く交流をしていました。ノースコート・カレッジは平成一八年と平成二〇年に本校生徒が訪問して語学研修をした学校で、来年二十二年度も語学研修を行う予定で現在準備をしています。

五月八日(金)には、本校体育館で「EUが学校にやってくる」という欧州委員会主催のイベントを行い、駐日英国大使のD・ウォッレン氏を迎えてEUに関する講演、質疑応答を行いました。生徒達は積極的に質問をしていて、この様子はNHKのニュースなどでも放送されました。

例年六月から七月の約六週間、フランス・リヨンのオンブローザ高校から短期留学生を受け入れることになっていきます。今年も予定をしていたのですが、新型インフルエンザの流行で中止になってしまいました。相互交流を行っていますので、現在来年三月から四月の約三週間の派遣準備をしています。



フランス・オンブローザ高校

九月十四日(月)には「二十一世紀東アジア青少年大交流計画」で来日した中国高校生五〇人が来校し、代表生徒と昼食を共にしたり、歓迎式典・授業体験が行われました。隣国の同世代の優秀な生徒と交流して大いに刺激を受けたようでした。

また、昨年はアメリカから長期留学生のジョン・アフマダ君を一年間受け入れていましたが、今年も二期からは約一年間の予定でロータリーの交換留学生のオッレ・レヴィン君を受け入れていきます。



中国高校生訪日団

このように様々な交流活動を行っています。最近では生徒の「新しいことにチャレンジしよう」という精神が以前に比べて希薄になってきているように感じます。若いときから世界に目を向け、異文化を体験することは大変貴重な経験になります。積極的にチャレンジしてもらえことを期待しています。



理科教育の充実化

外部講師を招いての特別授業

▼サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)事業指定校としての取り組みについて▲

地学科教諭 正田浩司
富士・箱根火山の活動と

火山噴出物の観察

今年度は「テフラ層序学からみた武蔵野台地の形成と富士・箱根火山の活動」というテーマで当事業を実施してきました。SPPとは理数教育の充実を図るため、大学や研究機関との連携の下、先進的な内容を探求していく取り組みです。その一環として、7月28日、29日の一泊で地学部員及び地学選択生徒たち11名が富士山と箱根火山でのフィールドワークに取り組みました。

講師には首都大学東京の鈴木毅彦教授をお招きし、ご協力頂きました。富士山御殿場口五合目の太郎坊では、今から約300年前の宝永噴火の時に噴出した宝永テフラを観察しました。また富士山の裾野(上柴怒田)では何万年にもわたる富士山の度重なる噴火でバームクーヘンの様に重なった地層を観察しました。2日目は箱根火山でカルデラや中央火口丘を観察し、その形成や活動の歴史を調べました。所沢高校の在る武蔵野台地

には関東ローム層の赤土が広がっていますが、この供給源となったのが富士山や箱根火山です。生徒たちはこのフィールドワークを基に各自がテーマを設定してさらに研究を重ね、1月には首都大学東京で各自の成果を発表しました。

▼サイエンスアカデミー事業を実施▲

化学科教諭 榎元俊介

今年度も高大連携先である東京大学大学院の久保田純准教授をお迎えして、サイエンスアカデミー事業による講義と実験を実施しました。

サイエンスアカデミー事業とは、高校生の理科離れ、科学技術離れに対処するため、豊かな知識・経験を保持した科学授業を行ったり、高度な専門技術を生かした実験・実習を体験させたりする県の事業です。

今年度は「これからの電池〜太陽電池&燃料電池をつくる」と題して、身近にある色素を用いた太陽電池(色素増感型太陽電池)の製作や、精肉の血液を利用した燃料電池用の触媒の製作に関する講義と性能実験を行いました。

特に、次世代の電池として研究が

進んでいる「燃料電池」の中で使われている白金に替わる電極触媒の研究は、世界各国の研究者によって進められているもので、その最先端に近い性能の触媒を、高校生が身近なものを使って製作し、モーターを回すことができたことは画期的なことだとの高い評価をいただきました。



東大大学院久保田准教授(本校OB)による講義

▼「勉強から学びへ」▲

生物科教諭 対馬良一

本校では最先端の科学技術や知識にふれることにより、理科教育や将来の科学的研究に対する興味関心を高めるため、県の研究機関等実習体験推進事業を取り入れている。本年度は「地域に根ざした環境教育」を進めていこうと、生物を選択している三年生を対象として環境教育の第一線で活躍している研究者を招い

て全三回の特別講義を行うこととした。第1回目の6月30日、埼玉大学教授安藤聡彦氏は、「世界を歩き、自分と向き合い、地域を変える」をテーマに講義。勉強と学びの違いについて「勉強は知識を吸収していくものですが、学びは今まで自分が知らなかった世界との出会いや人との出会い、新しい自分との出会いです。みなさんには、これからは学びを深めてほしいと思います」と語った。第2回目の10月6日、早稲田大学教授森川靖氏は「途上国の緑化と二酸化炭素吸収」をテーマに講義。「環境問題で、地球にやさしい」などと言うが、ほんとうは「人にやさしい」社会をつくっていかなくてはならない」と語った。熱心に聞き入っていた生徒たちは、学びとは何かを感じ取ったようである。



生物特別授業

クラス会を開催しました!

昭和28年卒業生 齋藤ふさ子



私たちがのようにクラス会を継続して開いている方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか?

私たちのクラス会は平成四年に始まりました。今年は三月二十九日に女性だけのクラス会が行われました。同期の小林操子さんのお力で、それぞれの人生と近況、そして亡き友を偲び語り合い、時の過ぎるのも忘れ至福のひとつを過ごしております。

同窓生の心の絆が深く、感慨もひとしおです。一年後の再会をまた元気で迎えられるよう願っています。所沢高校の卒業生であることに誇りを持ち、心豊かな素敵な女性として年を重ねて参りたいと思っております。所沢高校の発展を心よりお祈り申し上げます。

同窓会長はじめ役員の方々にお礼と感謝を申し上げます。

脈々と受け継がれる所高魂

ダンス発表会

保健体育科教諭 竹内 裕子

6月23日(火)の午後、第37回ダンス発表会が行われました。

3年生女子による各クラスの特徴ある創作ダンス。来年、再来年の勉強として鑑賞する1、2年生女子。そして、各クラスの応援にと体育館へ足を運んだ3年生男子。生き生きとしていました。

その中で、最も生き生きと輝いていたのは、やはり3年生女子。体育の授業時や朝練習、昼休み練習、そして放課後の練習と試行錯誤しながら作り上げた創作ダンスはクラスの特徴を、そして学年全体の特徴を表すとても力強いものとなっていました。

3年生女子の感想において、満足度のいく発表ができたと答えた割合がほぼ100%でした。

また、クラスがまとまって取り組

めたと答えた割合が90%を越えており、クラスの絆がより強くなったのではないかと思われま

す。みんなで協力し、1つのモノを作り上げる大変さや大切さを学んだと思います。



『創立百周年記念事業推進委員会の歴史』 記念プレート紹介

同窓会副会長(旧職員)

三上 恭央

昨年度の同窓会報でも簡単な報告をさせて頂きました。昭和62年に発足した創立百周年記念事業推進委員会は、合宿所・同窓会館『希望の鐘』の完成をもってその任を終え、創立110年目の平成20年5月17日の創立百周年記念事業推進委員会総会を経て解散致しました。なお、同窓会報を通じて会計報告をさせて頂きました。百周年記念事業基金の残金18,158円は、返戻金として同窓会会計へ計上させて頂きました。皆様のお陰を持ちまして、立派な合宿所・同窓会館『希望の鐘』が完成しました。22年間にもわたる長い年月、(この紙面をお借りしてでのお礼で申し訳ございませんが)創立百周年記念事業推進委員会にご尽力して頂いた同窓生・現・旧教職員皆様、また、ご寄付並びに、臨時会費として百周年記念事業基金の積立金に協力して下さった卒業生(同窓生)の皆様、本当にありがとうございました。

さて、初代 本橋俊男会長を始め、肥田塾孝会長その他、その他大勢の方の尽力により運営されていた創立百周年記念事業推進委員会。上記報告通り解散いたしました。22年間にも及ぶ長い歴史を記念するような何かを作れないだろうか?という、意見が今年度の同窓会総会でありました。総会で協議した結果、同窓会で『希望の鐘』落成式典のパンフレットに掲載した、『創立百周年記念事業推進委員会の歴史』を金属プレート版として作成し、同窓会館玄関ホールにご尽力なされて方々への感謝の気持ちとして寄贈することになりました。同窓会館に來られた際には、是非ともご覧下さい。



(10年間母校で、働くことが出来た事に感謝申し上げます。今後は同窓会役員として、校外から母校の更なる発展を支えていきたいと思っております。同窓生並びに、所沢高校教職員の皆様今後とも我が母校『所沢』を宜しくお願いいたします。

所沢高校の今昔



増田 弘
(英語科教諭
昭和48年卒)

私が、所沢高校に入学したのは、昭和四十四年。卒業した中学校は、すぐ隣の南稜中学校でした。中学三年生の夏に腎臓を悪くして、二学期以降、出席できませんでした。私の高校の進学先を決めたのは、当時の病院の担当医でした。「負担にならないように、一番近い高校に行きなさい。」

入学式は出たものの、その後、九ヶ月の入院。一年間、休学しました。その頃は、学生運動の最後の余波を受け、所沢高校も大変な時でした。復学して、やっと、一年生。当時、現在の一、二号館は、木造の二階建て。三号館は、建ったばかりで、新校舎と呼ばれ、三年生の教室でした。ただ、ロータリーから見る青年像、講堂、体育館等の景色は、今も当時と同じです。一年生のときは、校内の混乱の後で、生徒会に立候補する人がいなくて、文化祭がなかったのを覚えています。二年生は、制服の

自由化で揺れた一年。何回もの生徒総会を経て、全校投票。生徒は自由化賛成。保護者は、それに反対。三学期末の職員会議での決定を待つことになりました。その結果、制服の自由化が決定。三年生の時から制服が自由化。ただし、実際は私服を着ていたのは、ほんの少数。ほとんどが制服を着ていました。私服を着たことから、自由化を・・・というのではなくて、学校の中の自由ってなんだろうと探っていた時代でした。

三年の二学期からまた、二ヶ月ほど休み、出席日数ぎりぎりでなんとか卒業。それから三十七年が過ぎました。楽しい高校生活の思い出は多くありません。が、友人達には恵まれました。休んでいた時も、ノートをとって届けてくれました。今も毎年、三年生の時の同級生が、十人近く集まって新年会をしています。高校時代の大事な同級生達です。

四年前から、幸運にも母校の教壇に立つことができました。所高生もずいぶん、雰囲気は変わりましたが、生涯の親友が作れるのは昔と同じ、すばらしい学校だと思います。



所沢高校同窓会ホームページ

<http://www.tokoko-dosokai.jp>

- 主な内容は
 - ・歴史写真館
 - ・校歌、応援歌
 - ・同窓会報バックナンバー
 - ・著名な同窓生
 - ・会員交流のページ
 - ・クラス会の連絡、報告などです。

◇会報バックナンバーは、次のID・パスワードを入力の上、開いてください。

ID: tokoko パスワード: midorino

会員交流のページは、ホームページから個々に登録することで、使えるようになります。

◎お願い

・幹事さんへ：クラス会の開催予定や、楽しい報告がありましたら、ぜひお知らせください。

HP開設の目的は、会員の皆様への情報提供ですが、それ以外に、現役の所高生や所高を受験しようとしている中学生への情報発信にも役立てば、と考えています。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

お知らせ

同窓会総会開催のお知らせ

日時：平成22年5月8日(土) 午後2時
場所：同窓会館「希望の鐘」
多くの皆様の出席をお待ちしております。
なお、出席されるかたは、恐縮ですが、4月末日までに校内係へ電話連絡をお願いします。
役員の皆様へ
当日の午後1時より役員会を行う予定です。
詳細については、別途ご案内いたします。
多数の役員のかたの出席をお待ちしています。

- 『所沢高校百周年記念誌』、写真冊子『所沢高校百年の歩み』、校歌・応援歌・商業学校学生歌・女学校朝会歌を収録したCD、百周年記念テレホンカードをご希望の方は、所沢高校内の同窓会事務局までご連絡ください。
- クラス会、同期会など開催する場合は同窓会事務局までご連絡ください。情報提供などのお手伝いをいたします。また、記事として同窓会報に掲載させていただきたいと思っております。
- 同窓会報で取り上げて欲しい話題などありましたらご一報ください。また、同窓会報への投稿も大歓迎です。ご遠慮なくご連絡ください。お待ちしております。
- 住所変更等の場合はハガキなどの文書でご連絡ください。その際、記入者欄は必ずご記入下さい。未記入の場合お受けできないことがあります。なお、ハガキでの連絡で、個人情報をお手数ですがハガキを封筒に入れご郵送下さい。
- 同窓会名簿の取扱いに御注意をお願いいたします。

二〇一〇年 三月 卒業します ぶいぶいよんく

将来、
所高の先生になりたい



谷野 陽花

平成22年3月卒業

振り返ってみると、所沢高校で過ごした3年間は、本当にあつという間だったなあと感じます。入学当初、私の目に映る所高の先輩方は皆とてもキラキラしていて、私はいつも先輩に憧れて、いつもいつも先輩のようになりたいと思っていました。私がフォーク部に入学したのも、そこにいる先輩方が私にとってとても憧れる存在であったからでした。バンドを組むのは初めてだったので、私は毎日練習に明け暮れ、部活ののめり込みました。それぞれのライブ毎に深い想い入れがあり、今思い出すと本当に懐かしい気持ちです。そして、フォーク部で出会った沢山の仲間は、今もこれからも、私にとつ

とても大切な存在です。

部活動だけではなく、日々の勉強や行事においても、私の傍らにはいつも大切な仲間がいてくれました。お互いに切磋琢磨し、高め合える仲間の存在があったからこそ、今の自分があるのだと思います。また高校最後の体育祭で、憧れだった制作リーダーを務めることができたのも、支えてくれた仲間の存在があったからだと思います

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

所沢高校での数々の経験は、私を大きく成長させてくれました。今の私の目標は、所沢高校で教師として働くことです。これから始まる大学での生活には色々不安がありますが、新しい仲間と共に、大学でしか学べないことを学び、大学でしかできない経験をしたいと思っています。そしてその大学生活の結果として待っているものが、私の目標とする「教師」であればいいなと思っています。

(中央大学 文学部 人文社会学科 教育学専攻 進学)

周囲の人たちのおかげで



吉田 麻人

平成22年3月卒業

所高で過ごした3年間は毎日が本当に楽しく、充実した日々を送ることができました。

その日々の中で特に感じたことは「仲間の存在の大きさ」です。この3年間で沢山の人と出会いました。他愛ない会話をしたり、みんなで何かを創ったり・・・時には揉めることもありました。そのような何気ない日々の中で、友人から刺激を受け、切磋琢磨し合い、勉強でもスポーツでも互いに向上できました。色々な人と話すことによって、自分とは違う考え方も知り、人としての視野も広がりました。特にサッカー部のメンバーとは毎日のように顔を合わせ、長い時間を共に過ごした分、自

分にとって本当に大きな存在となり、

彼らから学ぶことも多くありました。このような友人がいたからこそ成長することができ、また支えてもらうことができました。所高生であったからこそ多くのかけがえのない友人と出会うことができました。所高で出会えた多くの人たちに本当に感謝しています。

そして「所高は注目されている。」ということも感じました。注目されているということは所高をアピールする良いチャンスだと思っています。所高生一人ひとりが些細なことでもプラスの行動をとることで、自ずと所高が今よりもっと地域から愛される高校になると思います。

4月からは新たな生活が始まります。所高生であったことに自信と誇りを持ち、新たなステージ、夢への一步を踏み出したいと思っています。

(立教大学 文学部 史学科 進学)



在校生の活動記録

男子ソフトテニス部

- ・新人大会西部地区予選(個人) ベスト16位 県大会出場
- ・高校総体県大会出場(個人)
- ・西部地区新人大会ベスト40通過 県大会出場

女子ソフトテニス部

- ・関東大会県大会(個人戦) 1ペア 出場

陸上競技部

- ・学校総合体育大会高等学校陸上競技対抗選手権兼関東高等学校陸上競技対抗選手権大会埼玉県予選会(県大会) 男子混成8種競技7位
- ・新人大会(県大会)
- ・女子三段跳び8位
- ・西部地区新人大会男子400mハードル3位
- ・5000mW4位
- ・4×100mR8位
- ・走り幅跳び5位
- ・西部地区新人大会女子三段跳び5位
- ・4×400mR8位

女子バスケットボール部

- ・学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会埼玉県大会出場
- ・夏季バスケットボール西部支部大会ベスト8
- ・新人大会西部地区予選突破
- ・新人大会(県大会) 出場

男子バスケットボール部

- ・西部支部大会ベスト16

新体操部

- ・県大会 団体11位

男子バレーボール部

- ・春季西部支部大会ベスト8
- ・関東西部支部予選ベスト8
- ・高校総体県予選ベスト16
- ・西部支部優秀選手1名(瀧浪翔太)

山岳部

- ・夏期合宿 南アルプス(仙文ヶ岳・甲斐駒ヶ岳) 狭山工業高校と合同山行

剣道部

- ・西部支部大会個人ベスト16(女子2名)
- ・ベスト32(男子1名 女子2名)
- ・第50回所沢市青少年三大道大会 女子個人3位1名

弓道部

- ・秩父三大道大会団体5位
- ・所沢市民弓道大会個人総合優勝
- ・第50回所沢市青少年三大道大会 団体優勝
- ・第6回埼玉県武道大会地区予選 団体優勝
- ・高校初級の部 女子個人優勝
- ・県新人大会 女子団体2位
- ・東日本大会出場

サッカー部

- ・高校選手権一次予選ブロック代表 決定戦にて敗退
- ・高校女子選手権予選リーグ3位
- ・公式戦初勝ち点を挙げる
- ・西部支部秋季大会ブロック1位
- ・新人大会西部30(男子) 女子県ベスト16

男子バドミントン部

- ・入間地区大会Bブロック 団体2位
- ・個人ダブルス優勝

女子バドミントン部

- ・新人大会西部地区予選会 個人ダブルス ベスト16
- ・新人大会県大会出場(個人ダブルス)
- ・ソフトボール部

ソフトボール部

- ・所沢市ソフトボール協会創立30周年記念大会 準優勝

バトン部

- ・日中高校生交流会パフォーマンス出演
- ・定期発表会
- ・埼玉県バトントワリング スプリングフェスティバル出場

ダンス部

- ・ストリート系ダンス中心に年3回のライブ実施
- ・バトン部と合同発表会

演劇部

- ・西部B地区大会参加

化学部

- ・サイエンスアカデミー事業参加
- ・小学生サイエンスクラブ企画参加
- ・サイエンスフェア参加 H21スピーアーリーナ「超低温の世界へようこそ」

書道部及び書道選択者

- ・第61回埼玉県書き初め中央展 推薦8名 特選3名 優良賞6名
- ・第48回埼玉県硬筆展覧会 特選4名 優良賞6名
- ・第33回学芸書道全国展 優秀団体賞(7年連続)
- ・理事長賞2名 硯心会奨励賞8名 特選29名・秀作・佳作・入選多数
- ・銀河書道作品展、明治神宮宮司賞
- ・一年 堀之内祐香
- ・第34回全日本高等学校書道教育研

研究会埼玉大会 鑑賞教育研究会授業実践校

美術部

- ・第52回埼玉県高校美術展奨励賞

ギター部

- ・全日本中学校・高等学校ギターフェスティバル
- ・合奏部門銅賞、重奏部門銅賞
- ・全日本ギターコンクール
- ・合奏部門銅賞
- ・独・重奏部門 銀賞・努力賞

吹奏楽部

- ・埼玉県吹奏楽コンクール Aの部 地区大会銀賞
- ・Aの部 県大会銀賞
- ・埼玉県アンサンブルコンテスト 木管五重奏 地区大会銀賞
- ・打楽器五重奏 地区大会銀賞

文芸部

- ・文芸埼玉第82号入選(小説)
- ・アステラス製薬
- ・エッセイコンテスト入賞

弦楽部

- ・西部地区高等学校音楽祭参加(本校単独+4校合同オーケストラ)

地学部

- ・サイエンス・パートナーシッププロジェクト(SPP)
- ・「テフラ層序学からみた武蔵野台地の形成と富士・箱根火山の活動」
- ・サイエンスフェア参加 H21
- ・スピーアーリーナ「富士山の立体模型を作ろう」

服飾部

- ・新入生歓迎会、所高祭、9月、二・三学期末で年5回のファッションショー開催

2009(平成21)年度入試 大学・短大合格数

学校種類	大学名	現役	既卒	合計
国公立4大	九州	0	1	1
	群馬	0	1	1
	埼玉	1	2	3
	筑波	1	0	1
	信州	0	1	1
	東京芸術	1	1	2
	東京工業	1	0	1
	東京農工	0	1	1
	埼玉県立	1	0	1
	高崎経済	0	1	1
	横浜市立	0	1	1
	合計		5	9

学校種類	大学名	現役	既卒	合計
私立4大	青山学院大	9	5	14
	亜細亜大	7	1	8
	跡見学園女子大	5	0	5
	大妻女子大	2	0	2
	学習院大	6	3	9
	学習院女子大	1	0	1
	京都外語	0	1	1
	杏林大	1	0	1
	共立女子大	1	0	1
	国学院大	2	5	7
	国土館大	8	2	10
	駒沢大	3	3	6
	駒沢女子大	1	0	1
	工学院大	4	0	4
	産業能率	0	1	1
	実践女子大	2	1	3
	芝浦工業大	13	6	19
	十文字学園女子大	5	0	5
	城西大	1	0	1
	上智大	2	2	4
	女子栄養大	3	0	3
	駿河台大	4	0	4
	昭和女子大	1	0	1
	杉野服飾大	1	0	1
	聖学院大	0	1	1
	成蹊大	11	3	14
	成城大	1	2	3
	清泉女子大	1	0	1
	専修大	2	4	6
	創価大	2	0	2
	大東文化大	12	3	15
	高千穂大	1	0	1
	拓殖大	3	3	6
	玉川大	1	1	2
	多摩大	1	2	3
	多摩美術大	1	1	2
	大正大	2	0	2
	中央大	14	8	22
	帝京大	3	3	6
	帝京平成大	2	0	2
	東京医療保健大	1	0	1
	東京音楽大	0	1	1

学校種類	大学名	現役	既卒	合計
私立4大	東京家政大	6	0	6
	東京経済大	7	2	9
	東京工科大	3	1	4
	東京国際大	5	0	5
	東京女子大	1	0	1
	東京造形大	2	3	5
	東京電機大	9	3	12
	東京都市大	1	2	3
	東京理科大	6	3	9
	東京農業大	4	0	4
	東京福祉大	1	0	1
	東京薬科大	1	0	1
	同志社大	0	2	2
	東洋大	35	8	43
	獨協大	6	6	12
	日本大	28	21	49
	日本社会事業大	1	1	2
	日本医療科学大	2	0	2
	日本女子大	3	0	3
	日本赤十字看護大	1	0	1
	文教大	0	2	2
	法政大	19	16	35
	北海学園	0	1	1
	武蔵大	12	6	18
	武蔵野大	3	0	3
	武蔵野美術大	3	11	14
	文化女子大	4	0	4
	文京学院大	2	0	2
	明治大	16	13	29
	明治学院大	3	1	4
明治薬科大	3	1	4	
明星大	6	1	7	
目白大	6	1	7	
立教大	10	8	18	
立正大	8	1	9	
立命館大	0	2	2	
和光大	1	0	1	
早稲田大	6	8	14	
合計		364	186	550

学校種類	大学名	現役	既卒	合計
私立短大	青山学院女子短期大	8	0	8
	亜細亜大学短期学部	1	0	1
	大妻女子大短期大学部	1	0	1
	共立女子短期大	2	0	2
	淑徳短期大学	0	1	1
	東京家政大短期大学部	2	0	2
	東京文化短期大	1	0	1
	東京農業大短期大学部	0	1	1
	桐朋学園芸術短期大	1	0	1
	日本歯科大東京短期大	1	0	1
山野美容芸術短期大	1	0	1	
合計		18	2	20

学校種類	大学名	現役	既卒	合計
大学校	職業能力開発大学校	0	1	1

2009年度(平成21年度)同窓会役員

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
顧問	藤宮 穎夫		常任幹事	小杉 正司	32	常任幹事	大野 由喜子	46
顧問	肥田 埜		常任幹事	島田 孝男	33	常任幹事	大駒 井光	50
相談役	肥沼 金治	30	常任幹事	秋谷 穂利	36	常任幹事	桑原 田浩	55
会長	当麻 実	36	常任幹事	八木 勝	36	常任幹事	原 久夫	54
副会長	木下 武文	37	常任幹事	上原 芳江	37	常任幹事	大石 健一	59
副会長	本松 明信	38	常任幹事	大河原 勝次	39	常任幹事	大秋 田孝	62
副会長	岩岡 民枝	29	常任幹事	横山 勝津彦	39	常任幹事	村山 泰崇	H6
副会長	三上 恭央	61	常任幹事	加藤 幸造	40	校長	丸山 豊美	
会計	滝島 孝一郎	43	常任幹事	本橋 栄三	43	事務局	森元 伸一	
会計	石井 里子	37	常任幹事	古谷 真一	43	事務局	伊藤 美穂	
監事	森田 貢	32	常任幹事	岸 晴男	44	事務局	榎 元俊	
監事	岡村 能成	47	常任幹事	富澤 行雄	44			
常任幹事	小沢 郁夫	29	常任幹事	川名 美代子	44			

2008年度(平成20年度)同窓会決算報告書

2009年度(平成21年度)同窓会予算書

1. 収入の部				1. 収入の部					
科目	予算額	決算額	増減	摘要	科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1) 会費	3,816,000	0	△ 3,816,000	入会金且終身会費(12,000 × 317名)	(1) 会費	0	3,816,000	△ 3,816,000	入会金、終身会費(12,000 × 354名)
(2) 雑収入	50,000	0	△ 50,000	預金利息、CD売上代	(2) 雑収入	50,000	50,000	0	預金利息、追加印刷、会員名簿売上等
(3) 繰越金	2,689,465	2,689,465	0	平成19年度より繰越し	(3) 繰越金	- 623,452	2,689,465	△ 3,312,917	平成20年度より繰越し
計	6,555,465	2,689,465	△ 3,866,000		計	- 573,452	6,555,465	△ 7,128,917	
2. 支出の部				2. 支出の部					
科目	予算額	決算額	増減	摘要	科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1) 事業費	4,400,000	2,335,785	△ 2,064,215	卒業記念品代(証書入れ) 123,110 会報編集費・印刷費 368,100 会報発送費 1,756,825 ホームページ作成・維持管理 0 総会(5周年)議案書印刷費 87,750 同窓会簡易印刷出力費 0 同窓会室ビクターレール工事 0 「書」の額装 0 印章作成 0	(1) 事業費	4,000,000	4,400,000	400,000	卒業記念品(証書入れ) 会報編集費・印刷費 会報発送費 入学祝い品(標準)作成 ホームページ作成・維持管理 総会議案書印刷費
(2) 会議費	100,000	0	100,000	役員会・総会等茶菓代、謝礼、他	(2) 会議費	100,000	100,000	0	役員会・総会等茶菓代、謝礼、他
(3) 事務費	600,000	0	600,000	郵券・葉書代・他郵送代	(3) 事務費	400,000	600,000	△ 200,000	郵券・葉書代、他郵送代 消耗品・旅費・同窓会館電話料 同窓会室備品(パソコン等)
(4) 諸費	200,000	0	200,000	同窓会館備品(金庫、椅子等)	(4) 諸費	200,000	200,000	0	慶弔費・記録写真代・写真データ整理
(5) 合宿所整備費	1,000,000	956,032	43,968	合宿所で必要な備品等整備費	(5) 合宿所整備費	600,000	1,000,000	△ 400,000	合宿所で必要な備品等整備費
(6) 予備費	255,465	21,100	234,365	筆耕代(感謝状)	(6) 予備費	- 5,873,452	255,465	△ 6,128,917	
計	6,555,465	3,312,917	3,242,548	部活動大会記事掲載料	計	- 573,452	6,555,465	△ 7,128,917	

差引残高(収入決算額 - 支出決算額) 2,689,465 - 3,312,917 = (623,452)円(本年度繰越)

3. 積立金 2,000,000円(埼玉りそな銀行所沢支店)

2009年度(平成21年) 5月 9日
埼玉県立所沢高等学校同窓会

正しい、決算書と予算書は
後のページに記載しています

印刷 有限会社 研文社
04(2942) 1589

会報題字
駒井光明氏(昭和50年卒)
毎日展審査会員

編集後記

今回は冒頭で「みんなで支える所沢高校」というテーマの座談会の様子を掲載いたしました。どなたも「所高(生)」への熱い思いを語っていらっしやいました。同窓生の方々の母校へのご支援をこれからも宜しくお願い致します。進路講演会・キャリアガイダンス関連で、現役生徒にお話等をしていただける方は気軽に学校へお問い合わせをお願い致します。心よりお待ちしております。

所沢高等学校後援会 賛助会員加入のお願い

後援会事業は以下の3つの事業を通して、本校の教育の発展・振興に大きく役立っています。

- 1 施設・設備の拡充援助
- 2 教育活動への助成
- 3 各行事への助成

賛助会員は本会の趣旨に賛同いただける方で、「賛助会員の期間は原則として1年とし、翌年度の会費納入をもって更新する」(後援会会則第4条2項)ことになっております。

会費の納入については以下の様にお願い致します。

- 1 口座 1口 2,000円
- 2 振り込み 郵便振り込みで、口座番号 00120161-53754
- 3 加入者名 埼玉県立所沢高等学校
期間 平成22年3月末日(4月中でも可)

平成20年度(2008年度) 同窓会決算報告書

1. 収入の部

(単位:円 △印:減額)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
(1) 会 費	3,816,000	3,804,000	△ 12,000	入会金且終身会費(12,000×317名)
(2) 雑 収 入	50,000	10,450	△ 39,550	預金利息、CD売上代
(3) 繰 越 金	2,689,465	2,689,465	0	平成19年度より繰越し
計	6,555,465	6,503,915	△ 51,550	

2. 支出の部

(単位:円 △印:減額)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
(1) 事 業 費	4,400,000	3,767,703	632,297	卒業記念品代(証書入れ) 123,110 会報編集費・印刷費 368,100 会報発送費 1,756,825 ホームページ作成・維持管理 322,050 総会(百周年)議案書印刷費 87,750 同窓会簡易名簿出力費 23,243 同窓会室ピクチャーレール工事 126,150 「書」の額装 300,900 襟章作成 659,575
(2) 会 議 費	100,000	19,831	80,169	役員会・総会等茶菓代、謝礼 他 19,831
(3) 事 務 費	600,000	375,979	224,021	郵券・葉書代・他郵送代 11,120 消耗品・旅費・同窓会館電話料 95,960 同窓会室備品(パソコン等) 268,899
(4) 諸 費	200,000	0	200,000	
(5) 合宿所整備費	1,000,000	956,032	43,968	同窓会館備品(会議机・椅子等) 956,032
(6) 予 備 費	255,465	21,100	234,365	筆耕代(感謝状) 10,000 部活動大会記事掲載料 11,100
計	6,555,465	5,140,645	1,414,820	

差引残高(収入決算額 - 支出決算額)

6,503,915 - 5,140,645 = 1,363,270 円 (次年度へ繰越)

3. 積立金

2,000,000 円(埼玉りそな銀行所沢支店)

上記の通り報告いたします

2009年(平成21年) 5月 9日
会長 当麻 実

以上監査の結果、適正の処理されていたことを報告いたします

2009年(平成21年) 4月23日
監事 森田 貢
監事 岡村 能成

平成21年度(2009年度) 同窓会予算書

1. 収入の部

(単位:円 △印:減額)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
(1) 会 費	4,248,000	3,816,000	432,000	入会金、終身会費(12,000×354名)
(2) 雑 収 入	50,000	50,000	0	預金利息、追加入会、会員名簿売上等
(3) 繰 越 金	1,363,270	2,689,465	△ 1,326,195	平成20年度より繰越し
計	5,661,270	6,555,465	△ 894,195	

2. 支出の部

(単位:円 △印:減額)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
(1) 事 業 費	4,000,000	4,400,000	△ 400,000	卒業記念品(証書入れ) 会報編集費・印刷費 会報発送費 入学祝い品(襟章)作成 ホームページ作成・維持管理 総会議案書印刷費
(2) 会 議 費	100,000	100,000	0	役員会・総会等茶菓代、謝礼 他
(3) 事 務 費	400,000	600,000	△ 200,000	郵券・葉書代、他郵送代 消耗品・旅費・同窓会館電話料 備品・プリンタ消耗品
(4) 諸 費	200,000	200,000	0	慶弔費・記録写真代・写真データ整理
(5) 合宿所整備費	600,000	1,000,000	△ 400,000	合宿所で必要な備品等整備費
(6) 予 備 費	361,270	255,465	105,805	
計	5,661,270	6,555,465	△ 894,195	

3. 積立金

2,000,000 円(埼玉りそな銀行所沢支店)

2009年度(平成21年) 5月 9日
埼玉県立所沢高等学校同窓会